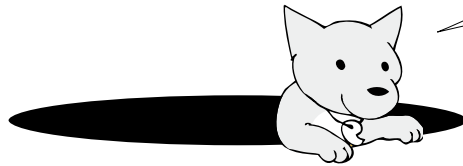


## 弥生時代の墓

人が亡くなると棺（かんおけ）に入れ、地面に掘った穴に埋めます。これを墓といいます。

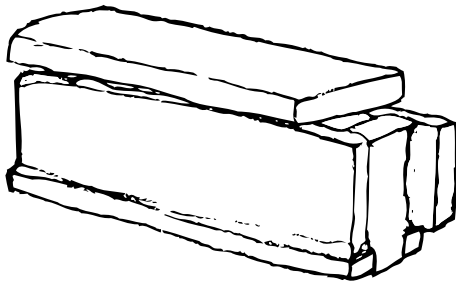
弥生時代には、日本の各地域で違う形の墓が作られていることから、地域ごとに葬式などの習慣が違っていたことがわかります。

弥生時代のお墓では、棺をいれた穴の上に土を盛りあげて、小さな山のようにしていたよ。その後は、底に穴をあけた土器をならべておまつりをしていったんだ。



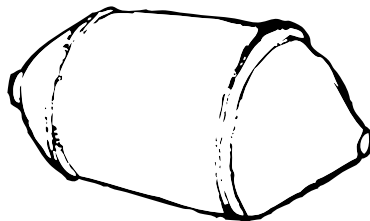
## ☆ 2つの棺をくらべてみよう

展示してある2つの棺は何でできているのか、（ ）に書きこんでみよう。また、どこの地域でみつかったのかな。例のように、地図の中から探して○で囲んでみよう。



( 木 )

棺にはコウヤマキという針葉樹がよく使われています。

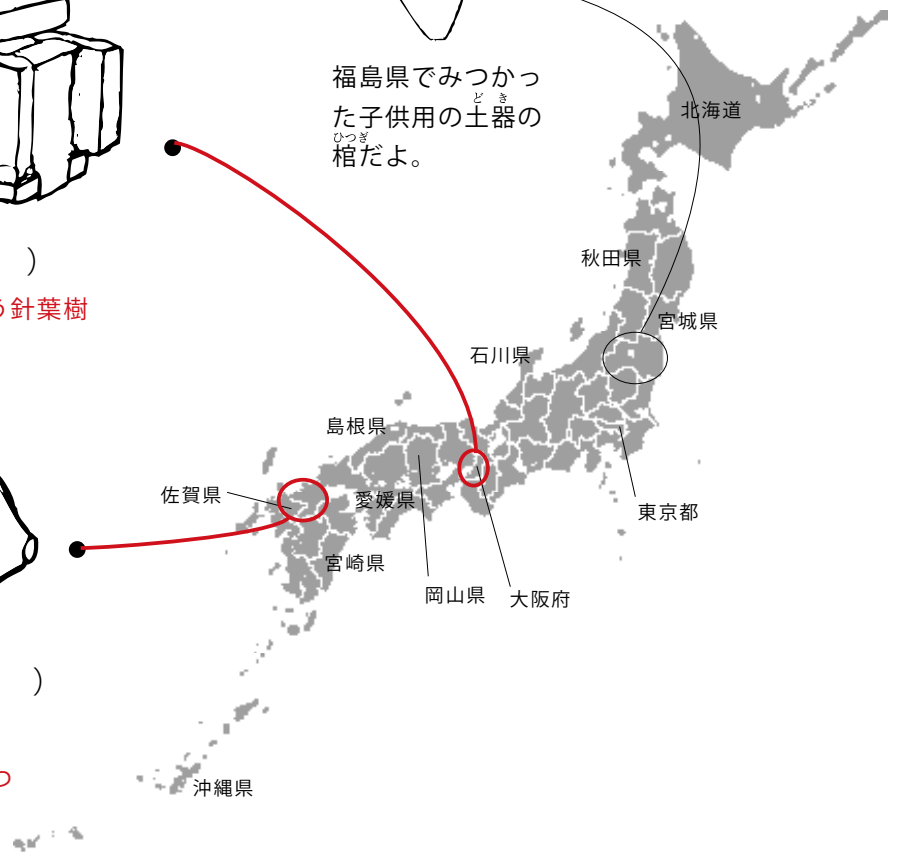


( 土器 )

「甕棺」と呼んでいるこの棺は福岡県や佐賀県で多く見つかっています。



例  
福島県でみつかった子供用の土器の棺だよ。

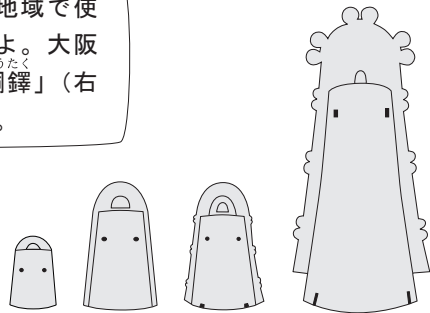


やよい  
弥生のまつり

今でも夏や秋などには祭りをおこない、神に農作物の豊かな実りを願い、感謝します。今では地車や神輿が祭りの道具として使われていますが、弥生時代には銅鐸や銅矛などの「青銅器」が使われていました。

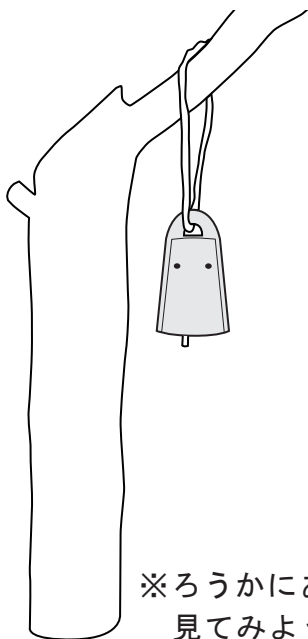


青銅製の祭りの道具は各地域で使われている種類が違うのよ。大阪などの近畿地方では、「銅鐸」（右図）が使われていたのよ。



聞く銅鐸から見る銅鐸へ

銅鐸は、初めは大きさも小さく飾りも少ないけど、しだいに大きく、飾りも多くなっていきます。このことから「音を鳴らして聞く道具」から、その姿を「見る道具」へと変わっていったと考えられています。



※ろうかにあるから  
見てみよう。

☆復元された「平成の銅鐸」を描いてみよう。



※1階のエントランスのまん中にあるよ。